

東広島市内における麻しん（はしか）患者の発生について

令和元年6月16日（日）、東広島市内の医療機関から県西部東保健所へ、発熱、結膜充血、発疹等を訴えて受診した患者について、麻しんの疑いがある旨の連絡があり、検査を実施したところ、6月17日（月）、麻しんであることが確定しました。

次の施設を記載の日に利用された方は、麻しんに感染している可能性がありますので、広く情報提供するものです。

なお、5月29日以降、職場で集団発生している事案との関連性については、現在、調査中です。

■麻しん患者との接触者が特定できていない施設（6月18日現在）

麻しん患者の利用日	麻しん患者が利用した施設
6月12日（水）	モスバーガー東広島店 20時頃
6月15日（土）	ローソン東広島西条駅前店 17時頃

※麻しん患者の利用日以外に当該施設を利用された場合は、感染のおそれはありません。

■県民の皆様へのお願い

○「麻しん」が疑われる場合には

- ・症状から「麻しん」が疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、速やかに受診してください。
- ・受診の際は、周囲の方へ感染させないように公共交通機関等の利用を避けてください。

麻しんの症状等

- ・初期症状は、発熱と咳、咽頭痛、鼻水、眼球結膜の充血、目やに等のカタル症状です。
 - ・これらの症状が数日続いたあと、一旦体温は下がったかのように見えますが、すぐに高熱となり、体に赤い発疹が出始めて全身に広がります。
 - ・感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強いと言われています。
- ・麻しんにかかったことがある方は、感染の心配はありません。
 - ・麻しん含有ワクチンを1才以上で2回接種したことのある方は、発症の可能性は極めて低いです。

1 患者の概要

年齢・性別 30歳代 女性
住所 東広島市内
発症日 令和元年6月13日（発熱）
診断日 令和元年6月17日
症状 発熱、結膜充血、発疹等
予防接種歴 不明

2 医療機関の皆様へ

- ・発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認等、麻しんの発生を意識した診療をお願いします。
- ・患者（疑い含む。）は、個室管理を行う等、麻しんの感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。
- ・臨床症状等から麻しんと診断した場合には、速やかに保健所へ届け出てください。

お 願 い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いします。